

「豪雨災害に関する意識」についてのアンケート集計結果

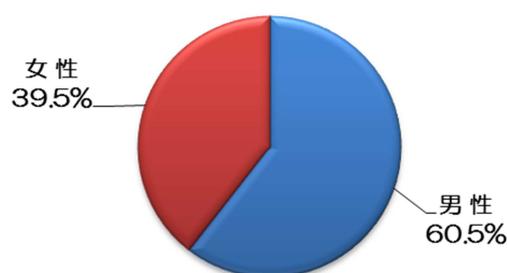
- ★調査時期：平成29年11月
- ★対象者：県政モニター 397人
- ★回答数：314人（回収率79.1%）
- ★担当課：土木交通部 流域政策局 流域治水政策室
- ★調査目的：県では、どのような洪水にあっても、“人命が失われること”や“生活再建が困難となる被害”を避けることを目的に、河川改修などの「川の中の対策」に加えて、「川の外の対策」を県民の皆さんと協働で実施していく「流域治水政策」を推進しているところです。
 県民のみなさんの豪雨災害に関する意識等について把握し、今後の施策検討の参考とする目的でアンケート調査を実施しました。
 ※参考に昨年度のアンケート結果も掲載しています。

(※四捨五入により割合の合計が100%にならない場合があります。)

◆性別

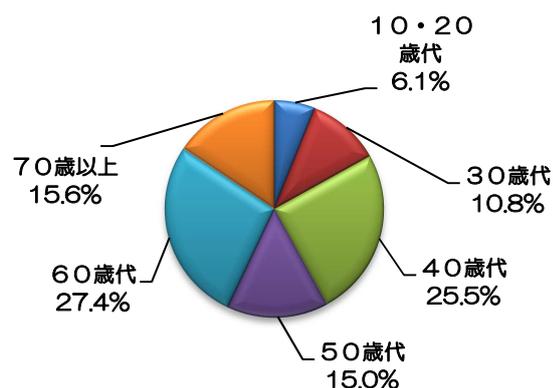
(参考)

項目	今回(H29.11)		前回(H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
男性	190	60.5	209	61.5
女性	124	39.5	131	38.5
合計	314	100.0	340	100.0



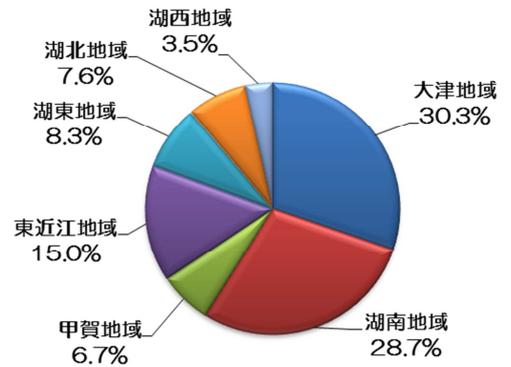
◆年代

項目	今回(H29.11)		前回(H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	19	6.1	9	2.6
30歳代	34	10.8	40	11.8
40歳代	79	25.5	80	23.5
50歳代	47	15.0	68	20.0
60歳代	86	27.4	90	26.5
70歳以上	49	15.6	53	15.6
合計	314	100.0	340	100.0



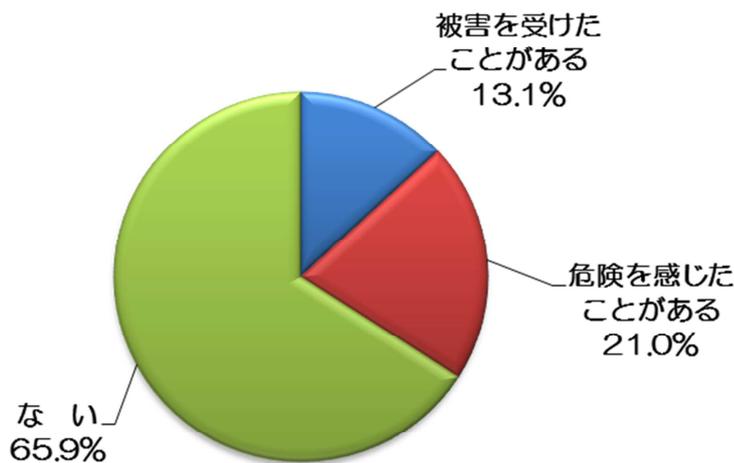
◆地域

項目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
大津地域	95	30.3	100	29.4
湖南地域	90	28.7	96	28.2
甲賀地域	21	6.7	27	7.9
東近江地域	47	15.0	55	16.2
湖東地域	26	8.3	30	8.8
湖北地域	24	7.6	20	5.9
湖西地域	11	3.5	12	3.5
合計	314	100.0	340	100.0



問1 近年、全国各地で水害や土砂災害が発生していますが、あなたは、過去に豪雨（台風を含む）によって被害を受けたり、危険を感じたりしたことはありますか。（回答チェックは1つだけ n=314）

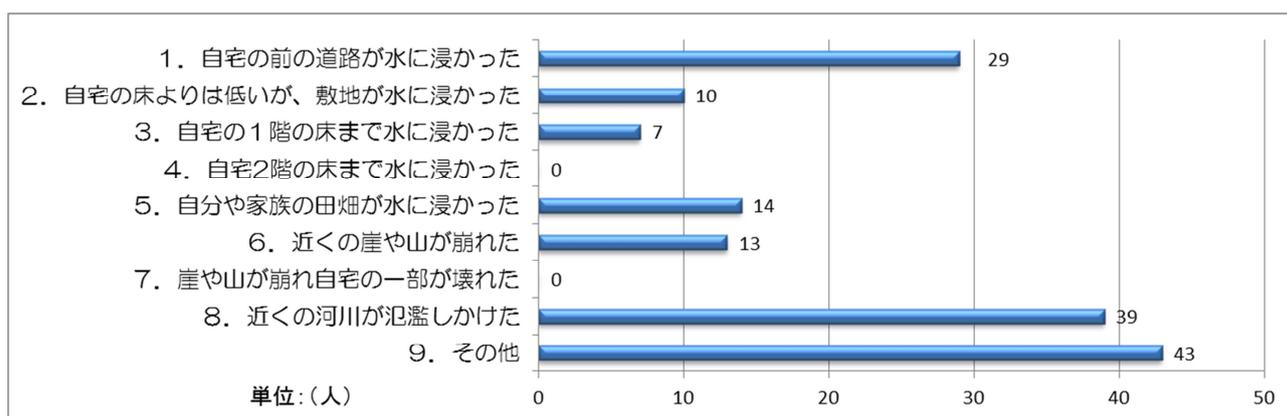
項目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
被害を受けたことがある	41	13.1	46	13.5
危険を感じたことがある	66	21.0	95	27.9
ない	207	65.9	199	58.5
合計	314	100.0	340	100.0



問2 問1で「1. 被害を受けたことがある」または「2. 危険を感じたことがある」と回答された方におたずねします。

その時の状況はどのようなものでしたか。(回答チェックはいくつでも n=107)

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 自宅の前の道路が水に浸かった	29	27.1	39	27.7
2. 自宅の床よりは低いが、敷地が水に浸かった	10	9.3	24	17.0
3. 自宅の1階の床まで水に浸かった	7	6.5	15	10.6
4. 自宅2階の床まで水に浸かった	0	0.0	0	0.0
5. 自分や家族の田畑が水に浸かった	14	13.1	13	9.2
6. 近くの崖や山が崩れた	13	12.1	19	13.5
7. 崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた	0	0.0	2	1.4
8. 近くの河川が氾濫しかけた	39	36.4	58	41.1
9. その他	43	40.2	37	26.2



問3 あなたは、今住んでいる地域で起きた過去の自然災害(被害)の話を、人から聞かれたことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=314)

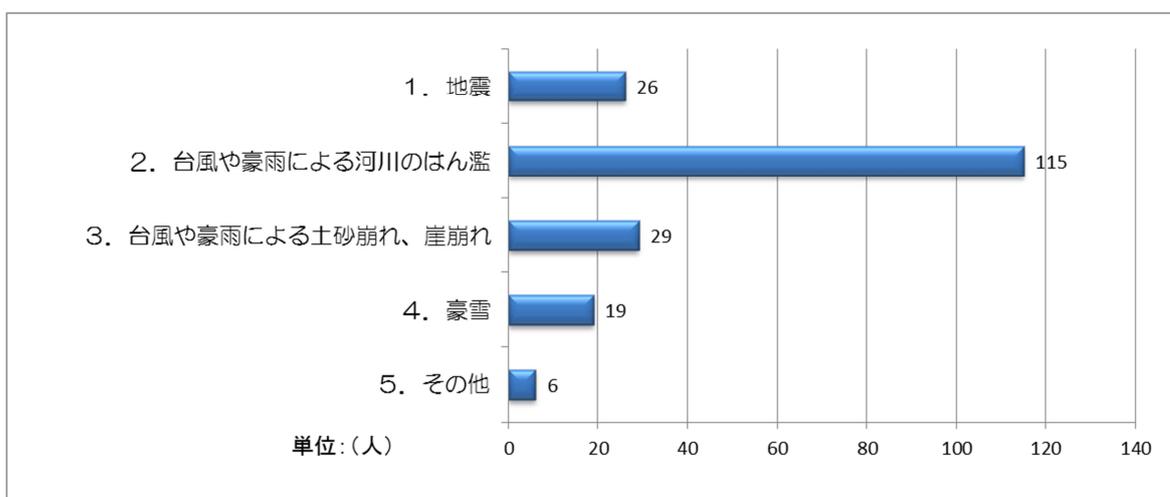
項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
あ る	134	42.7	129	37.9
な い	180	57.3	211	62.1
合 計	314	100.0	340	100.0



問4 問3で「1. ある」と回答された方におたずねします。

問3の話はどのような自然災害ですか。(回答チェックはいくつでも可。n=134)

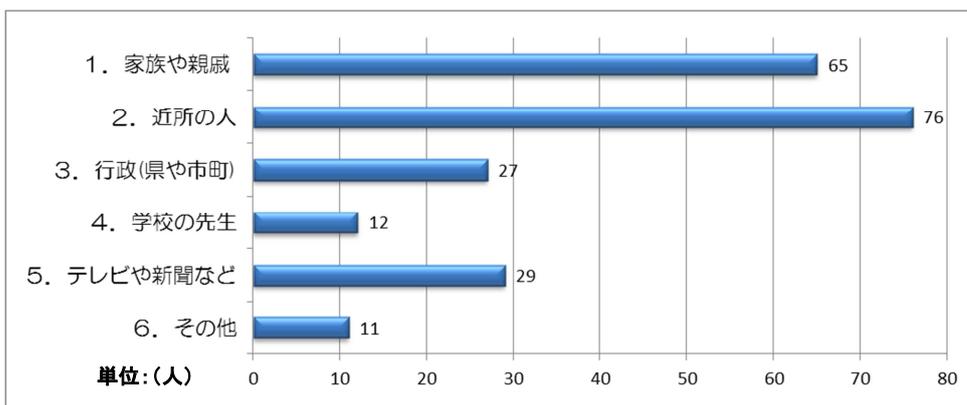
項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 地震	26	19.4	19	14.7
2. 台風や豪雨による河川のはん濫	115	85.8	111	86.0
3. 台風や豪雨による土砂崩れ、崖崩れ	29	21.6	23	17.8
4. 豪雪	19	14.2	11	8.5
5. その他	6	4.5	3	2.3



問5 問3で「1. ある」と回答された方におたずねします。

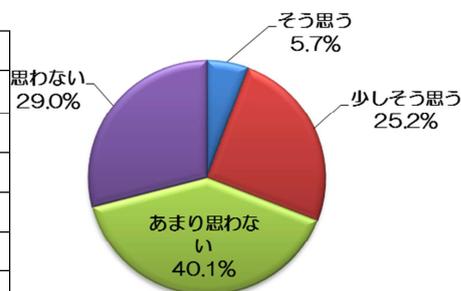
問3の話はどなたからお聞きになりましたか。(回答チェックはいくつでも可。n=134)

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 家族や親戚	65	48.5	61	47.3
2. 近所の人	76	56.7	70	54.3
3. 行政(県や市町)	27	20.1	22	17.1
4. 学校の先生	12	9.0	9	7.0
5. テレビや新聞など	29	21.6	18	14.0
6. その他	11	8.2	16	12.4



問6 あなたは、今お住まいの家が今後10年以内に洪水による被害を受けられると思いますか。(回答チェックは1つだけ n=314)

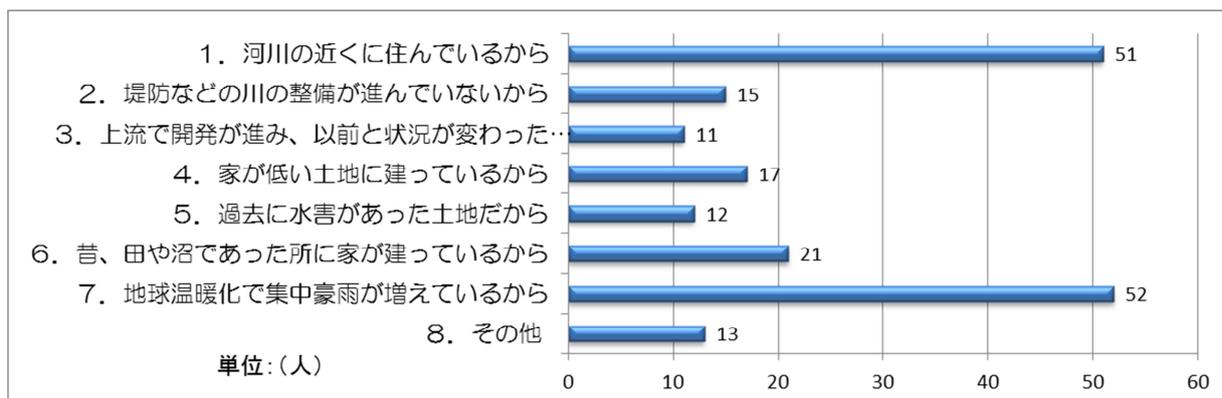
項目	今回(H29.11)		前回(H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. そう思う	18	5.7	20	5.9
2. 少しそう思う	79	25.2	73	21.5
3. あまり思わない	126	40.1	136	40.0
4. 思わない	91	29.0	111	32.6
合計	314	100.0	340	100.0



問7 問6で「1. そう思う」または「2. 少しそう思う」と回答された方におたずねします。

どのような理由から、そのように思われますか。(回答チェックはいくつでも。n=97)

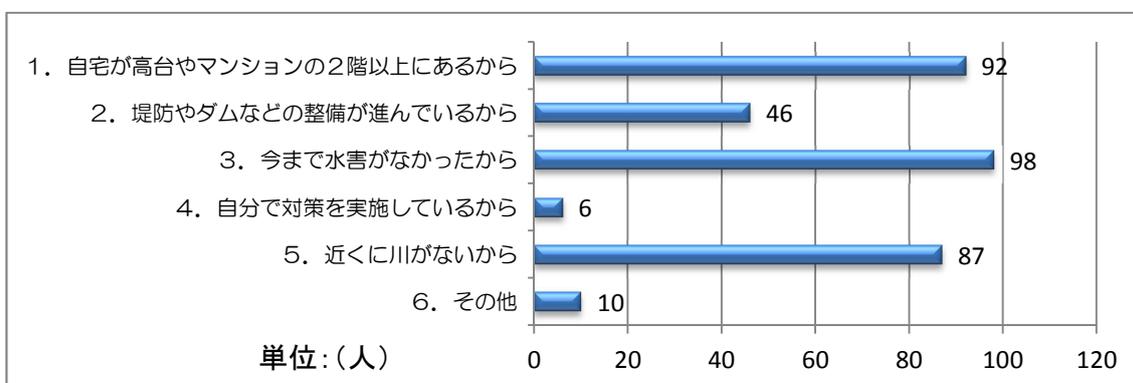
項目	今回(H29.11)		前回(H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 河川の近くに住んでいるから	51	52.6	56	60.2
2. 堤防などの川の整備が進んでいないから	15	15.5	18	19.4
3. 上流で開発が進み、以前と状況が変わったから	11	11.3	13	14.0
4. 家が低い土地に建っているから	17	17.5	12	12.9
5. 過去に水害があった土地だから	12	12.4	16	17.2
6. 昔、田や沼であった所に家が建っているから	21	21.6	24	25.8
7. 地球温暖化で集中豪雨が増えているから	52	53.6	44	47.3
8. その他	13	13.4	11	11.8



問8 問6で「3. あまり思わない」および「4. 思わない」と回答された方におたずねします。

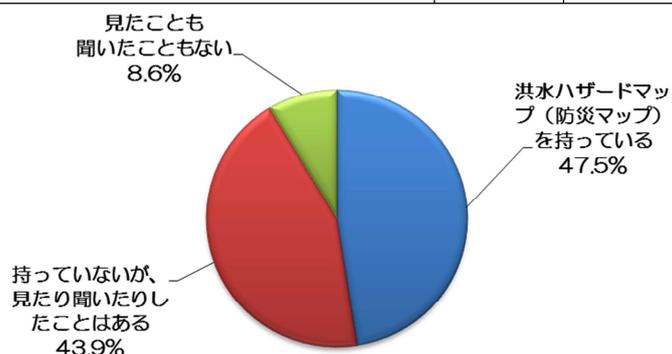
どのような理由から、そのように思われますか。(回答チェックはいくつでも。n=217)

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 自宅が高台やマンションの2階以上にあるから	92	42.4	112	45.3
2. 堤防やダムなどの整備が進んでいるから	46	21.2	43	17.4
3. 今まで水害がなかったから	98	45.2	117	47.4
4. 自分で対策を実施しているから	6	2.8	6	2.4
5. 近くに川がないから	87	40.1	77	31.2
6. その他	10	4.6	14	5.7



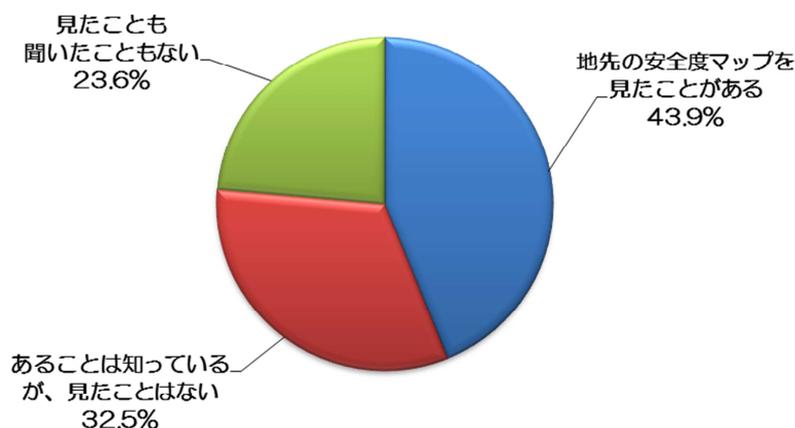
問9 浸水が予想される区域を示すものとして、お住まいの市町が配布する「洪水ハザードマップ(防災マップ)」がありますが、あなたはこれを見たり、聞いたりしたことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=314)

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 洪水ハザードマップ(防災マップ)を持っている	149	47.5	151	44.4
2. 持っていないが、見たり聞いたりしたことはある	138	43.9	156	45.9
3. 見たことも聞いたこともない	27	8.6	39	11.5
合 計	314	100.0	340	100.0



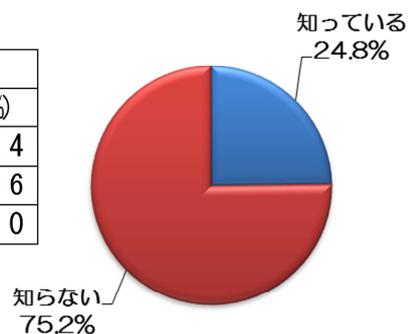
問10 浸水が予想される区域を示すものとして、滋賀県では、大きな河川だけではなく身近な水路や小河川の氾濫も含め、詳細な水害リスクを予測した「地先の安全度マップ」を作成し、滋賀県ホームページで公開していますが、あなたはこれを見たり、聞いたりしたことがありますか。(回答チェックは1つだけ n=314)

項 目	今回 (H29.11)		前回 (H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 地先の安全度マップを見たことがある	138	43.9	121	35.6
2. あることは知っているが、見たことはない	102	32.5	109	32.1
3. 見たことも聞いたこともない	74	23.6	110	32.4
合 計	314	100.0	340	100.0



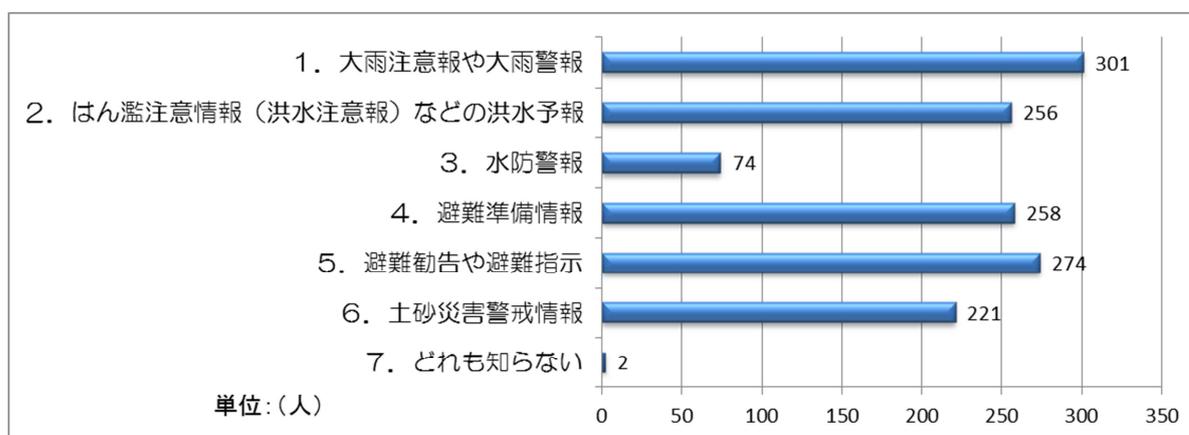
問11 滋賀県では、家や土地の売買・賃貸借の際に、水害リスク情報（地先の安全度マップや洪水ハザードマップ）を取引相手に示すよう努力義務規定を設けていますが、あなたはこのことについて知っていますか。(回答チェックは1つだけ n=314)

項 目	今回 (H29.11)		前回 (H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 知っている	78	24.8	66	19.4
2. 知らない	236	75.2	274	80.6
合 計	314	100.0	340	100.0



問 12 水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に出る情報のうち、あなたが知っているものはどれですか。(回答チェックはいくつでも可。n=314)

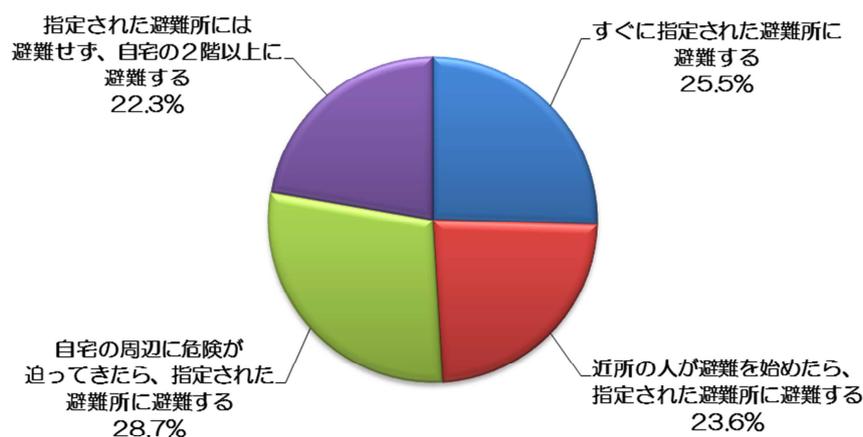
項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 大雨注意報や大雨警報	301	95.9	325	95.6
2. はん濫注意情報(洪水注意報)などの洪水予報	256	81.5	235	69.1
3. 水防警報	74	23.6	69	20.3
4. 避難準備情報	258	82.2	244	71.8
5. 避難勧告や避難指示	274	87.3	289	85.0
6. 土砂災害警戒情報	221	70.4	236	69.4
7. どれも知らない	2	0.6	7	2.1



問 13 水害や土砂災害の危険が高くなり、市町から避難勧告が出された場合、あなたはどのような行動をとると思われますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(回答チェックは1つだけ n=314)

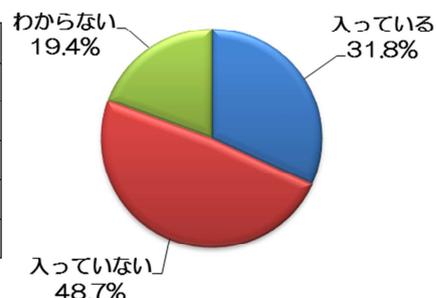
項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. すぐに指定された避難所に避難する	80	25.5	116	34.1
2. 近所の人が始めたら、指定された避難所に避難する	74	23.6	77	22.6
3. 自宅の周辺に危険が迫ってきたら、指定された避難所に避難する	90	28.7	95	27.9
4. 指定された避難所には避難せず、自宅の2階以上に避難する	70	22.3	52	15.3
合 計	314	100.0	340	100.0

※ 自宅の周辺に危険が迫ってきた時には、避難場所へ避難することがかえって危険な場合もあります。2階まで浸水するリスクがある場所も存在し、そこでは2階への避難が危険な場合もあります。事前に地先の安全度(浸水深など)などを調べ、災害時は情報をしっかりと集め判断して下さい。



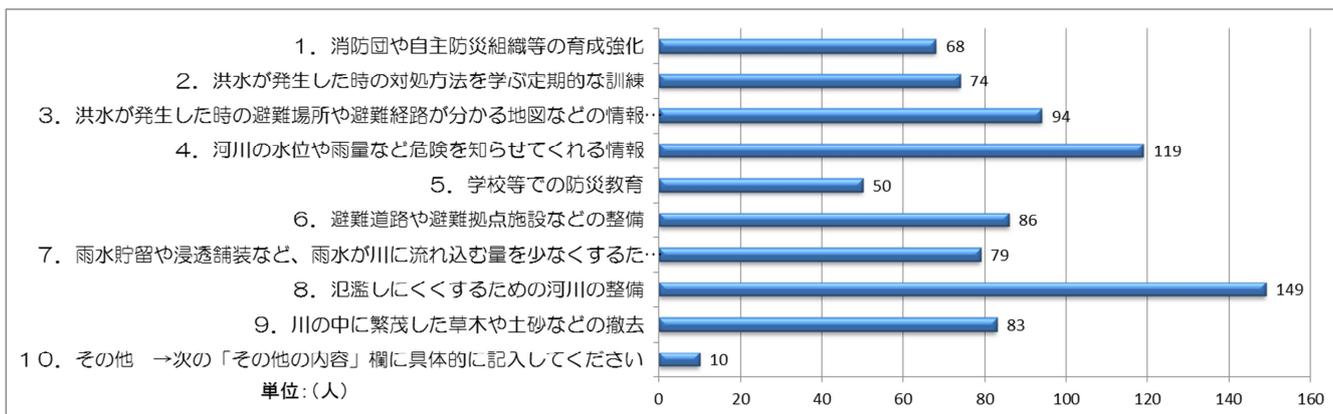
問 14 あなたは、火災保険に加えて、水害や土砂災害に備えた保険（住宅総合保険等）に入られていますか。（回答チェックは1つだけ n=314）

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 入っている	100	31.8	107	31.5
2. 入っていない	153	48.7	191	56.2
3. わからない	61	19.4	42	12.4
合 計	314	100.0	340	100.0



問 15 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取組を望まれますか。重視して進めるべきと考えるものを選んでください。（回答チェックは3つまで可。n=314）

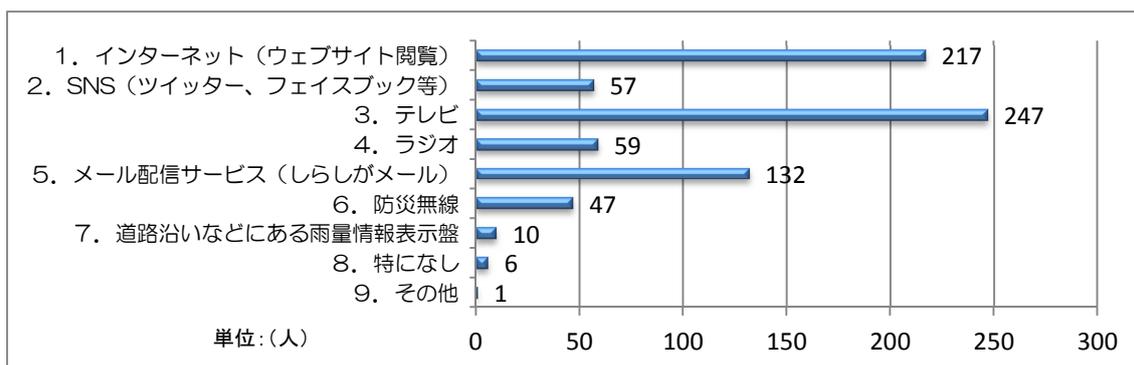
項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 消防団や自主防災組織等の育成強化	68	21.7	60	17.6
2. 洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練	74	23.6	89	26.2
3. 洪水が発生した時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	94	29.9	135	39.7
4. 河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報	119	37.9	148	43.5
5. 学校等での防災教育	50	15.9	62	18.2
6. 避難道路や避難拠点施設などの整備	86	27.4	105	30.9
7. 雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	79	25.2	84	24.7
8. はん濫しにくくするための河川の整備	149	47.5	135	39.7
9. 川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去	83	26.4	62	18.2
10. その他	10	3.2	20	5.9



問 16 豪雨災害時の情報取得手段としてよく活用しているものを教えてください。

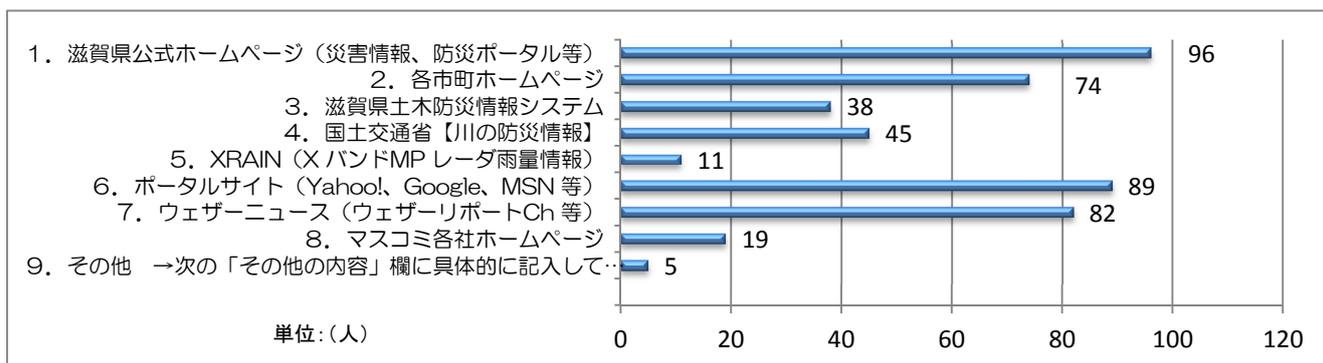
(回答チェックはいくつでも可。n=314)

項目	今回(H29.11)		前回(H28.11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. インターネット(ウェブサイト閲覧)	217	69.1	240	70.6
2. SNS(ツイッター、フェイスブック等)	57	18.2	59	17.4
3. テレビ	247	78.7	296	87.1
4. ラジオ	59	18.8	99	29.1
5. メール配信サービス(しらがメール)	132	42.0	176	51.8
6. 防災無線	47	15.0	64	18.8
7. 道路沿いなどにある雨量情報表示盤	10	3.2	17	5.0
8. 特になし	6	1.9	1	0.3
9. その他	1	0.3	7	2.1



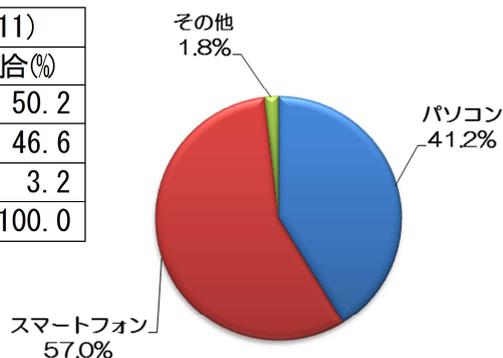
問 17 問 16で「1. インターネット(ウェブサイト閲覧)」と回答された方におたずねします。よく利用するサイトを教えてください。(回答チェックはいくつでも可 n=217)

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. 滋賀県公式ホームページ (災害情報、防災ポータル等)	96	44.2	116	48.3
2. 各市町ホームページ	74	34.1	86	35.8
3. 滋賀県土木防災情報システム	38	17.5	39	16.3
4. 国土交通省【川の防災情報】	45	20.7	38	15.8
5. XRAIN (XバンドMP レーダ雨量情報)	11	5.1	7	2.9
6. ポータルサイト (Yahoo!、Google、MSN等)	89	41.0	114	47.5
7. ウェザーニュース (ウェザーリポート Ch等)	82	37.8	98	40.8
8. マスコミ各社ホームページ	19	8.8	28	11.7
9. その他	5	2.3	9	3.8



問 18 問 16で「1. インターネット(ウェブサイト閲覧)」または「2. SNS (ツイッター、フェイスブック等)」と回答された方におたずねします。主に使用される機器はどれですか。(回答チェックは1つだけ n=228)

項 目	今回 (H29. 11)		前回 (H28. 11)	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
1. パソコン	94	41.2	125	50.2
2. スマートフォン	130	57.0	116	46.6
3. その他	4	1.8	8	3.2
合 計	228	100.0	249	100.0



問 19 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思われますか。御意見がありましたらお聞かせください。

〔主な回答〕

【個人で留意すること】

- 起こることは自然現象なので仕方ない。
自分の家はどのような被害を受ける可能性があるのかを知っておく。考えておく。
シミュレーションする。
- 自分が住んでいる地域の災害リスクを把握し、災害発生時における避難方法の確認、必要に応じて、救援依頼する手段を複数用意しておく。
- 心配でも、田んぼの様子や川の様子は見に行かない。
実際、豪雨災害の犠牲者は、心配で様子を見に行った人が多く含まれている。
心配で見に行っても、多くの場合、自然には敵わない。
嵐が来たら、自分の身を守る行動をとる。
- 水害・土砂崩れの起きそうなところに家を建てない事。
- 防災グッズを準備しておく。保存食の確保と定期的に賞味期限日の確認。
- 土嚢の常備。
- 河川や自宅まわりの側溝の清掃など。
- 家族、友人と災害の話題でおしゃべりする。こうすればいいね、というアイデアを日頃から話しあう。

【地域で留意すること】

- 地域全体で避難訓練をすることが重要だと思います。
- やはり地域の特性をしっかり把握することに尽き、そのためにはお座なりにならない防災知識を身につける防災訓練が、第一であろう。そこでは毎年基本は同じであっても、興味を惹きつけるための新たなポイントを示すことが大事であろうし、高齢化社会に向けての高齢者の避難体制や救急救命法などの実習は実際に経験してみても大事であると感じている。
- 日頃から避難誘導等お互い助け合う体制づくり。災害に立ち向かう、活動をする体制づくり。
- 河川清掃の草刈りなどの共同作業に出役して、年に1回でも近傍の河川の状況を把握すること。大雨が降れば川底の状況、草の状況から身近な判断基準ができる。河川等を見る作業やイベント等で河川を見る機会が重要と思う。
- 大きな川の中までやろうと思うとかなり厳しいが、字中にある小規模河川や水路などを定期的に清掃・整理し水が流れやすい状態にしておくことが氾濫を防ぐこと間違いありません。もちろん、各自の住民の協力は必須です。
- 地域でのつながりや連絡体制が大切だと思います。

【その他】

- 防災に対する日常の心構えが一番だと考えます。各学区自治会で防災のプロを育てる必要がある。その意味で消防署はじめ防災機関と2回／年の訓練をしているのを知っているが効果があるのか疑問がある。
取りあえずは「しらしがメール」を住民に周知徹底すればどうか。
- 災害発生時は電源喪失が予測される。TV やラジオからの情報が得られないので、各自治体（たとえば町内会長など）には無線連絡設備の設置が望まれる。携帯電話では繋がらない場合がある。
- 台風で放送が何度も流れていましたが、声が響いて全く内容が聞き取れませんでした。20 年以上前かもしれませんが、一家に一台、専用スピーカーが配布されて、それでアナウンスを聞けることがありました。
- 常に最新の情報を得るよう心掛けています。
システムの整備をおねがいします。
- 台風などで氾濫危険水位に達する場所はだいたいいつも同じなので、そちらを優先して整備すべきだと思う。
- 河川の整備が特に必要と思う。
- 専門家を招聘しての地域住民へのセミナーの開催。
他の市町での成功事例の学習会の実施。
- 住宅開発企業（建売住宅）や、個人の建築確認申請時の現地調査等十分な確認、再確認を行って頂きたいものです。（奈良県の近鉄沿線開発を教訓にお願いいたします）。
- 適切な避難場所の設定。（現在の状況では避難場所が適切だとは信じがたい。）水害等の災害は高所への避難とされているが、私の地域では何の指導、広報も聞かない。同じ高さのエリアにある保育園が避難場所。意味があるのか？
- 避難場所の設備を完備して貰っておくと嬉しいと思いました。
- 近くの山林を守ること。
最近休耕田が多くなり、竹、雑草が生え、山中にある砂防ダムのチェックもできない状況になってきた。
砂防ダムの周りは、がけ崩れし多くの木が倒れており川にも堆積物が多い。そのうち砂防ダムの役割も消滅すると思っている。
冬になると雑草も枯れ猛獣もいなくなるので砂防ダムのチェックに行きます。
昔の山林道路を保護する対策が必要です。